

2014年度学校教育評価 目標・計画

部署	重点目標（計画）	具体的方策（計画）
SS大学進学コース	生徒一人ひとりの充実した学校生活と学力の伸長、及び希望進路の実現	① クラス全員が、各々の希望する進路に進む（3年）② 難関国公立大学合格を出す（3年）③ 「総合的な学習の時間」、「大学見学ツアー」等を通じ、進学意識を高め、進路目標を明確にさせる（2年） ④ 個々の学習習慣（家庭学習）を定着させる（1年）⑤ 個性的な生徒が、互いに認め合い、支え合える学級作りをする（1年）⑥ OB・OG講演を実施する⑦ 「寺子屋」を通じ、1～3年生の交流を図りつつ、個々の学力の伸長を目指す
総合進学コース	学力の充実と社会適応力の育成	キャリア教育によって、個々の生徒に適応した望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせる。また、自らが掲げたテーマに対し、調査研究した内容をプレゼンテーションし、ディスカッションすることで、実践的な自己表現能力とコミュニケーション能力を磨く。 系統別のカリキュラムでは、授業による知識の定着と、現場での実習による実践力をバランス良く習得し、生徒の進路実現の推進力とする。 2年次の小論文素材研究、3年次の国語表現、小論文模試などを活用し、AO・推薦入試に必要なスキルを早い段階から身につける。 部活動・生徒会活動など課外活動への積極的な取り組みを促し、現代の社会に適應できる「人間力」の育成に努める。
美術工芸コース	希望進路の実現	個別面談を行い、目標実現のため、適切な支援を行う 専門実習の更なる充実と共に、美大入試科目の充実を図る アートセンター（美大予備校）及び進路情報会社との連携強化
	生徒の心身の充実	教員間の密接な連絡による適切な生徒相談を行う 美術・工芸を通じた生徒の向上意欲の増進
	生徒作品の充実	過去の美工展を総括し、更なる作品の充実を図る 様々な機会を設け、生徒達により多くの優れた美術・工芸作品に触れさせるよう努める 40周年記念展示を通して更なる意欲の向上を図る
	生徒募集活動の活性化	学校ホームページの積極的活用
スポーツサイエンスコース	競技力・実績の向上	各競技ごとに目標設定をし個々の技術力とチーム力を向上させ達成する。
	学力向上と人間形成	高校生として学力向上に努めるコミュニケーション能力・基本的生活習慣の向上に努める
	希望進路の実現	競技力向上と学力向上の両立。生徒に適した進路を考え、担任進路指導と連携をとりサポート。進路開拓を積極的に行う。
食物科	卒業記念作品展の成功	作業工程表をさらに有効に活用し、作品展がスムーズに実施できるように指導をする。 メニュー指導を徹底し、各々の作品の完成度をさらに向上できるように指導する。
	平成27年度導入の新カリキュラムへの対応	講習会へ参加し、理解を深める。
1学年	自主的な学習の取り組みと他への思いやりを持った行動の実現	基本的な学習習慣を確立させる 他者への思いやりの心を持たせる 将来の進路について意識させ、目標をもたせる 日々の学習、ホームルーム活動に対し自主性をもたせる 自己肯定感に関する意識を高め、健全な生徒の育成に努める
2学年	健全な学校生活を送れるよう支援	日々の学習に対する意識の向上 他者への思いやりの意識の向上
	進路学習への支援	将来の進路について、主体的、研究・計画・実行する力を養う。
	平和学習の充実	沖縄研修旅行の意義と沖縄の過去・現在・未来について学び、恒久平和について考えさせる。 学年集会・課題学習・読書習慣などを総合的に計画・実施し、生徒が主体的に考え、活動する場を設ける。
3学年	生徒一人一人の進路希望の実現と無事全員が卒業を迎えられるように適切な指導を行う。	仮進級生が早い時期に単位を取得できるよう担任、教科担任の連携を密にする。 自分に適した進路を早い時点で決定し、進学・就職実現のサポートをする。 進学後・就職後、社会に出た後も通用する学力、人間力をきちんと身につけさせる。 進路決定後、部活動引退後も基本的生活習慣・学校内外での乱れの無いようにさせる。
教務部	他部署との連携を図る	文書・選択表等を期日を決め確実に集める 授業変更・自習監督の円滑化
	新課程カリキュラムの完成	学科コース主任会との連携 各教科との連携
	成績PC処理の円滑化	入力のPC処理を教科担当が行う・各学年担当が成績処理 教科担任と学級担任と連携を強化する
	憲法人権平和教育	今年度は人権問題に重点を置き、アパルトヘイトの映画を見せる（「マンデラの名もなき看守」）
	行事企画の円滑な運営	2ヶ月前連絡の徹底 ミスをなくす
	適正な定員確保のための入試	スポーツ推薦の厳格化 入試全体の見直し
	間違いのない教科書選択	各教科との連携 円滑な教科書販売ができるように
進路指導部	適正な自己認識と進路選択	必要かつ有効な進路情報の提供 ガイダンス・カウンセリング（個別面談）による支援 自己理解のための適性検査・諸検査の実施 講演会や説明会、調査や見学・体験などの機会の設置
	希望進路の実現	就職未決定者0の実現 第一志望校への合格
	社会人として必要な資質の育成	基礎学力・一般教養の定着 基本的生活習慣を身につけさせる 面接指導を通じてのマナーの定着
環境衛生部	生徒・職員の心身の健康問題の早期発見・早期治療	健康診断で指摘を受けた者に対する早期の受診勧告 担任と協力して生徒の欠席状況・心身の健康状況を把握する
	日々の保健指導・健康相談活動の充実	養護教諭の特性と保健室の機能を生かし、様々な訴えをしっかりと受け止める 生徒の様子を紙面で担任に毎日報告、必要に応じ学年とも連携し迅速的確に対応
	防災対策・防災教育の充実	避難訓練等の実施を通して生徒の防災意識の向上 様々な災害に対応できる環境整備
	学習環境の整備	教师生徒による全校清掃の徹底 校内巡視（清掃委員会）による、校内美化の注意喚起

部署	重点目標（計画）	具体的方策（計画）
生活指導部	学校目標に則った生徒の育成	いじめや差別がない学校作り、ならびに早期発見と早期解決 悩みを抱えている生徒への配慮、ならびに相談体制の充実
	生徒の基本的な生活習慣の定着	身なりに関する指導の徹底 授業への取り組み姿勢に関する指導の徹底
	現代的で喫緊の課題に対する予防指導の充実	男女交際に関する教育ならびに性教育の充実 情報通信端末類ならびにネットやブログの使い方に関する指導の充実
	問題行動に対する適切な指導と迅速な対応	学年会との連携による有機的な指導の検討 懸念や指摘（被害や苦情）に対する迅速な対応と周知徹底
	盗難防止、ならびに交通安全と交通マナーの徹底	校内での盗難の抑止 自転車による事故の防止、ならびに公共交通機関を利用する際のマナーアップ
	生活指導方針の周知・徹底	在校生と保護者への積極的な情報提供 受験予定者と保護者への積極的な情報提供
生徒会指導部	生徒会活動の充実	生徒だけでなく教職員の意識も向上するように働きかけをする 日常生活における活動や取り組みを数多くするように提案等していく 東日本大震災の復興支援やインターアクトクラブなど、学校外に対する活動を充実させる
	文化祭の成功	生徒の自主性や主体性が発揮されるような文化祭になるよう助言をし、生徒たちが達成感を得られるような文化祭にする
	課外活動の充実	充実した課外活動になるよう、様々な面におけるサポート体制を構築し、さらに発展させる
渉外部	教職員、会員相互の連携を図り、より良い活動を展開する。	①学級・学年PTA活動の充実②地区PTA活動の充実③委員会活動の推進④研修機会の充実*特に②の地区PTA活動を充実させたい。
	私学助成中信地区私学助成推進協議会組織の活動を展開。	陳情活動の充実。ならびに助成水準の現状維持を図る
	同窓会組織の充実と活性化	PTA びーたーばんなど他団体との協力を図る。生方の協力を仰ぎ、同窓会役員との連携をはかる。総会を有意義なものとして、参加者を増やす工夫をする。
図書視聴覚部	図書館利用の活発化。	カード化を進める。利用しやすい図書館内の環境整備。広報活動の充実。委員会活動の活発化
	朝読書のサポート	名著、名作、新書、沖縄など平和教育関連の図書を積極的に購入する。
	視聴覚教材の授業への活用	視聴覚教材を活用して生徒の理解をより深められるように、視聴覚教材の充実と利用を促進する
生徒募集	学校の教育方針に見合った定員の確保	本校の様子を中学の先生・生徒・保護者に理解してもらう。中学校訪問や進路講話を行い、本校を志望する良い生徒を確保
安全管理委員会	学校安全の推進	生徒の生活安全、交通安全、災害安全等、地域社会・家庭との連携を図り強化していく一斉メール等も活用する
学校振興委員会	学年一斉授業の計画立案	12学年の学年集会形式の授業計画を立て、学年会・多分掌（進路指導・生活指導・教務）との連携で開講を目指す
部活動後援会	部活動への効率的な助成	各部の実績や部員数を助成し、補助金を適正に配分する
	部活動を通しての生活指導の徹底	帰宅時間や部室管理等の意識統一を徹底する
	競技力向上のための指導法の研究	各種研修会への参加促進、並びに校内研究会の開催
校務分掌委員会	次年度校務分掌・決め方内容の検討	職員が互いに前向きに仕事ができるように、最善の策を講じる
教育課程委員会	教員のコマ・選択状況などの把握	教員のコマ・選択状況などの把握が確実にできるようにする
	新教育課程の作成	生徒の進路実現に向け、より普遍的なカリキュラムを作成
特別支援教育委員会	発達障害・不登校傾向など支援を要する生徒に対し、職員間の情報共有授業参加への働きかけの立案実践	職員会他での情報共有
		職員研修の実施
		アンケートほかの活用
		定期考査時等の相談室の活用
国語科	学習を総合的に進め、思考力をのばし言語感覚をみがき心情を豊かにし言語文化に対する関心を深める。	漢字検定全校受検
		小論模試などを活用し、入試に必要なスキルを身につける
		テキストの音読、読解などを通じ、読む力、書く力、話す力を総合的に学習
地歴公民科	教科指導の充実	授業内の指導を最重要とし、生徒に興味・関心を持たせるような指導の向上を図っていく
		各科目の教育目標を達成できるように、すべての生徒へのきめ細やかな教科指導を意識する 一般・推薦入試等に対応できるように、個々に応じた指導を行う
数学科	総合的に学習し、論理的思考能力をつけ物事を順序立てて計画的に行動できるように。	数学検定の実施回数を増やし、生徒の数学への興味関心を高める。受験者の募集を積極的に行うとともに合格へ向けての指導を徹底する。
		小テストや定期テスト、各種模試を通じ理解度を確認
理科	学力の定着と理系進学者への対応	新課程シラバスの作成
		実験や教材等を効果的に活用し科学的基礎力の定着を図る。理系進学者には科学的思考力の向上を意識した授業展開
外国語科	基礎学力の充実	毎朝の単語テスト実施による単語力の増強
		生徒の学力レベルに合った習熟度別講座の展開
		長期休暇の課題提示とアフターフォロー
		ALTとの連携により、生徒の表現する力を補強
進路実現のサポート	センター・二次試験・私大入試に向けた問題演習と個人指導	
	サテライト教材の活用	
	英検の受験促進および二次試験面接指導	
美術科	美術を通して生徒1人1人の成長を目指す。	それぞれの分野において基礎力を身に付ける
		集中力、持続力、体力の向上
		探究心、向上心を持って制作する
		幅広い視野を持ち、自己表現力を身に付ける
家庭科	身の回りの衣食住の問題に対処する力の養成	いわゆる衣食住の知識・技術にとどまらず、現代の生活はどうなっているか、今後はどうなっていくべきかという観点で養成したい。
情報科	①情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させる	情報化の進展が社会に及ぼす影響や個人の責任などの面から情報社会の特性や在り方を考えさせ、情報通信ネットワーク上のルールやマナー、情報の安全性などに関する基礎的な知識や技能を習得させる。（情報モラル）
	②情報通信ネットワークの適切活用で情報を収集処理表現	情報とメディアの特徴、情報のデジタル化の仕組み、情報手段の基本的な仕組みなどについて理解させる。（文章処理、表計算、プログラミング）
	③コミュニケーションを行う能力を養う	コミュニケーション手段の発達を变遷と関連付け理解させる。情報通信ネットワークの特性と情報の受発信時に配慮すべき事項を理解させる。（プレゼンテーション）
保健体育科	体力向上・コミュニケーション能力育成のために・・・	スポーツテスト実施による体力把握
		バレー・バスケットボールによる集団スポーツでの体力コミュニケーション能力の育成 柔道では「心・技・体」の重要性・認識の育成。
	心と身体育成のために・・・	「心と身体バランス」の重要性についての育成
		青春期の「性」に対する考え方の育成 現代の「少子高齢化」・「社会保障」等の諸問題の育成